

一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ

シリーズ/NO 157号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

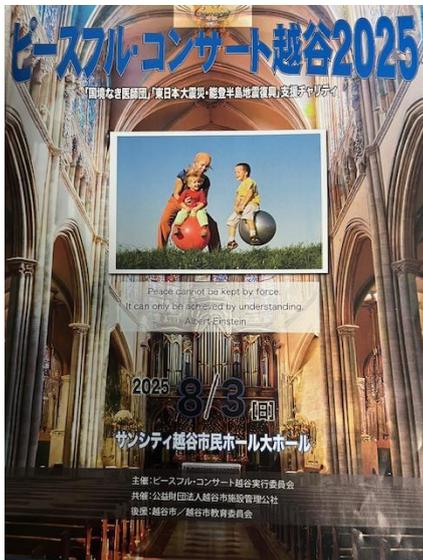
初当選以来6期22年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4400日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は294名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



「国境なき医師団」「東日本大震災」支援 チャリティのコンサートの参加



2009年以来政治・宗教・民族を超えて、医療・平和・福祉に貢献する人々を支援する「ピースフル・コンサート越谷2025」が、新越谷のサンシティ市民ホールで開催された。

今回で17回目の開催を迎えているが、このイベントの収益

は、「国境なき医師団」「東日本大震災」「能登半島地震復興」への全額寄付金としたチャリティコンサートだ。

公募合唱団のピースフル・コンサート越谷合唱団とオーケストラのコンセール イン・テラ・ハクスが演奏や歌唱を2時間にわたり、会場の市民の気持ちを揺さぶった。

会場のサンシティホールは、紆余曲折の中現在「越谷サンシティの在り方に関する審議会」で協議が続いているが、数年の内には解体されることとなる。そのため今後市民ホール等の公共施設をどうして行くのか現在未決定の状態だ。この23人で構成する審議会は、令和7年3月から7月まで3回の会議が開かれてはいるものの、まだ具体的な計画案さえ決定されていない。大小の市民ホール等のリノベーション計画を一旦は市が計画したものの、これを白紙に戻す市民請願が採択された（私は反対したが）ことから更に計画が先延ばしになっている。

(8月3日日曜日)

(仮称)川柳学園建設に係るコンクリート打設の作業が現場判断のミスによりやり直しに

9月越谷市議会が、9月1日から開始予定のため、市長提出議案27件について私が所属するこしがや無所属の会への議案説明会が開催された。その中で特に大きな問題と思われるものに、小中一貫教育校の一つである(仮称)川柳学園の校舎建設工事に関して異例の現場監督者の判断ミスのため工事が中断。一旦コンクリートで打設したエリアを解体して、工事のやり直しの事態に陥った。

本年6月30日、現場監督者から「2階立上り3階床梁のコンクリート打設において、本来床と梁のコンクリート打設を同日に行うべきところ、同月25日と26日の2日間に分けたコンクリート水平打継ぎが行われた」との報告があった。しかし工法は、要求水準「建築工事監督指針」に準じた施設工法ではないため、床と梁の一体性確保に問題があり、床と梁の、剛性による構造部材への耐性・耐久性に大きな影響が懸念された。

このため、市では越谷市立小中一貫整備事業“是正・躯体工事継続”に係る対策委員会（庁内の関係部長以下14人と事業者側4社及び第3者のモリタリングの研究所で構成）が、(裏へ)

7月31日に開催され関係者からの聞き取りや調査が実施された。

それによると打設のため25日にコンクリートの必要量100m³が搬入される予定だったが、70m³しか運搬されなかったが、次の26日に残り30m³が運搬されたためそのまま流し込んだ、と言うものだ。

しかし、この2日間に分けて流し込むのは、工法違反であり、従ってこの部分は全面的に解体して、再度打設することになった。

この解体工事はすでに始まっており、当初の完成予定である令和8年4月開校に今回の事態の影響でも何とか間に合う事となった。

何故この様な根本的な現場の判断ミスを起こしたのか、との問いに「全く考えられないミスだが、現場監督と総括責任者との連携が取れなかった」との答弁だった。

また、この解体工事の事業費は全額（推定だが5000万円超）、工事請負会社が負担する、と。

この例によらず日本では、人口減少時代を背景として技術者が不足しており更に現場での技術伝承が弱く、組織の中央集権化が進行していることから所謂ブラック企業化が大きな問題点として指摘されている。

(8月8日・金曜日)

埼玉政治「家」ラボ シーズン2 「地域問題解決のための議会・行政・市民の役割」をテーマに開催

福田晃越谷市長を校長に迎え、政治家の養成のためには、市民自身が主権者として地域や社会になかで、どの様な役割と責任を引き受けるのか、学校として連続講義を開催する埼玉政治「家」ラボの第2回目が越谷市民活動支援センターを会場に開催された。

このラボへの参加対象者は、①地方政治家や選挙に関心のある若者（高校生から30代まで）②県、市議会議員を目指している方③議員になって間もない方で実践的な知識やスキルを学びたい方④地域づくり・まちづくりを学びたい方⑤市政や市長選挙の争点に興味をもつ方⑥埼玉県内に留まらず、対象地区は全国から、として発足した。2回目は、現役の市議から学ぶ、市議会の仕組みと機能・議員の仕事の実態・議会で問われる視点・態度など視座に開催。

講師は、元船橋市議会議員の津曲敏明氏で、本年6月の船橋市長選挙に初挑戦したが、惜敗

したため敗北の経験から何を学ぶのかを中心に話して頂いた。

当選した市長や議員が、勝利した選挙の取り組みを話す場面は多くあるが、落選した者がオープンにしかも不特定多数の市民の前で話すのは相当の勇気と覚悟が必要とされる。

津曲氏は、立憲民主党公認で船橋市議3期目の途中で立候補し前回の市議選ではトップ当選を果たした子育て世代である。

現職4期目との闘となったが、これまでの宝船方式といわれる自民党、公明党などの与党がこぞって推薦するスタイルが長く続いていたことを突破しようと試みた。

しかし、同時に立憲民主党の野田代表のおひざ元である船橋市では対抗する政治母体も立憲民主党を中心としたことから、立憲民主党推薦候補となり、結果として同質の構造となってしまったため、得票は現職にダブルスコアで敗北した。

ただ、選挙ではミニ集会を繰り返して開催し、市民ニーズや地域課題を把握する事に撤したし、若い運動員とも活動を担うことが出来た、と強調した。

これに対して、現職の市長である福田晃校長も、津曲氏と同様に、市議3期目の途中で初当選し、子育て世代であることから共通項も多い。

同時に、目前の2期目の市長選挙に臨み、新人候補の視点や闘い方の比較検討が多いに出来た、と印象を語っていた。また、市民からは、船橋市議会が総与党体制の様な運営をしていることを「市議会のサロン化」と表現したことを受けて、この傾向はどの市議会でも起こっており、議員の責任も大きいとその議員を選んでいる市民にも大きな問題がある、との発言も会場の共感を得ていた。（8月20日・水曜日）

早朝から、駅前広場で話し込む若者

今朝の駅立ちは、新越谷駅東口で実施したので、駅到着は、午前5時40分過ぎとなった。

しかし、街宣用具を設置する定位置である車道額のフェンスに3人の若者が早朝から話し込んでいた。20台前半とも思われる男性たちだったが、一向に話が終わらない。仕方がなく定位置から邪魔にならない様に設置した。そして3人が立ち去ったのは午前6時40分を過ぎていたが、何やら終始楽しそうだった。私にもそんな時代があったはずだが。（8月21日・木曜日）